

Oracle Access Governance

Oracle Access Governanceは、クラウド・ネイティブなアイデンティティ・ガバナンスおよび管理（IGA）サービスです。これにより、個人がどのリソースにアクセスできるか、そのアクセス権を持つべきかどうか、アクセス・エンタイトルメントをどのように使用しているかについて、シンプルかつ簡単に把握できます。企業は、情報の制御を管理し、最小権限アクセスの規制遵守要件に対応するために、適切なジャストインタイムのユーザー・アクセス権を適用するという課題に常に直面しています。Oracle Access Governanceを使用すると、ユーザーが持つべきアクセスのタイプに関する即時で規範的なガイダンスにより、管理者による新しいユーザーのプロビジョニングと離職するユーザーのデプロビジョニングの迅速な実行が簡単になります。さらに、Oracle Access Governanceの機械学習インテリジェンスにより、あらゆるタイプのアクセスについて異常な行動パターンがないかを観察し、必要に応じて修正アクションを自動化できます。手動での大規模で定期的なレビューの代わりに、Oracle Access Governanceによって適切なアクセス管理を用いた継続的なコンプライアンスが可能になり、絶えずリスクが評価されレポートが作成されます。リスクのあるイベントやアクセスは、組込みのインテリジェント機能によって定期的にレビューされて情報が提供されます。この継続的なコンプライアンス・モデルにより、監査対応にかかるコストと労力が大幅に削減されます。Oracle Access Governanceは、ターゲット・システムを継続的に追加し、新しいアプリケーションとクラウド環境およびオンプレミス環境全体のアクセス制御に対する深い洞察を提供します。

背景

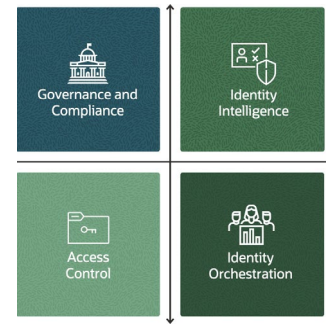
従来、あらゆる業界のあらゆる規模の組織が、潜在的なリスクを最小限に抑えながら生産性を向上させることを目標に、ユーザー、デバイス、ボット、サービスに対するアクセス・レベルを効率的に管理するという課題に直面してきました。

さらに、誰がどのデジタル資産へアクセスできるかについての可視性を維持し、そのようなアクセスの妥当性を企業のコンプライアンス指針に従って検証することも重要な課題です。

組織は通常、手動プロセスに依存して、ユーザーや他のIDに権限を割り当てています。これには多くの場合、アクセスをリクエストするために電子メールやコラボレーション・ツールを通じて他の個人にアプローチしているユーザーが含まれます。ただし、手動プロセスでは、スケーラビリティやコンプライアンスの検証の面で課題が生じます。

組織はまた、アクセス・ルール、エンタイトルメント、権限、ロール、およびポリシー全体において、手動による定期的なレビューに依存しています。

クラウドの導入とデジタル・トランスフォーメーションのグローバルな増加により、組織はアクセスやエンタイトルメントに関連するセキュリティ上のリスクを認識せざるを得なくなりました。マルチクラウド環境とハイブリッド環境の普及により、組織は、ユーザー・アクセスの正確で自動化されたプロビジョニングおよびデプロビジョニングを効率的に管理するという課題に直面しています。さらに、アクセス・レビューの複雑で時間のかかる性質と、必要なコンテキストの欠如のために、レビュー担当者が個人のアクセスに関して情報に基づいた意思決定を行うことが困難になっています。透明性が欠如しているために、多数の組織は“ゴム印承認”のアプローチを採用し、必要以上の権限によるアクセスを取り消さない全面的容認が行われています。これらの問題によって、組織では、デジタル資産へのIDアクセス、必要以上の権限による重要データへのアクセス、企業ポリシーの遵守の証明、およびガバナンス・コストの削減に関連するリスクの最小化や排除が困難になっています。



Oracle Access Governanceは、継続的にIDを検出してそれらの権限を監視し、使用パターンを学習し、規範的な推奨事項を用いてアクセス・レビューとコンプライアンスのプロセスを自動化することで、組織のクラウドおよびオンプレミス環境全体でのアクセスへの可視性を向上させます。

「私たちがクラウド・ネイティブのガバナンス・アーキテクチャの導入を進める際に、Oracle Access Governanceはこの領域の重要なプレーヤーとして現れました。直感的なユーザー・アクセス・レビュー、データ・インサイトによる処方的分析、および自動修正機能が強調された戦略的な設計は、セキュアなIT環境を促進するという私たちの取組みに合致しています。このクラウド・ネイティブのサービスは、将来を見越した私たちのITセキュリティ戦略に完全に合致しており、可能性を探りたいと強く願っています。」

City and County of San Francisco, Department of Technology, IAM & Directory Services, Director, **Chinna Subramaniam氏**

概要

高度なアイデンティティ・ガバナンスおよび管理機能を利用するには、組織は生産性を向上させるために柔軟なアクセス制御方法を提供するソリューションを評価する必要があります。これらのソリューションは、異常を特定してセキュリティ上のリスクを効果的に軽減するための、処方的分析などのリアルタイム機能を備えている必要があります。そのようなソリューションを評価して実装することにより、組織はセキュリティ態勢を強化でき、アイデンティティ・ガバナンス・プロセスを合理化できます。

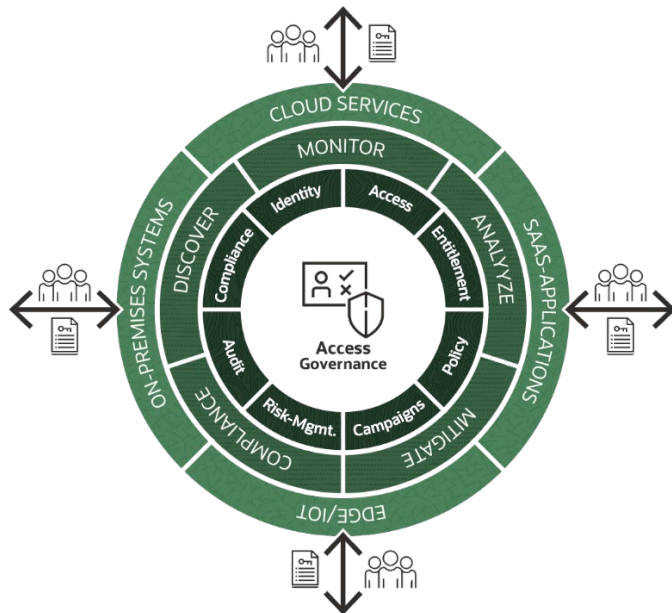


図1：Oracle Access Governance—常時稼働のガバナンス

[Oracle Access Governance](#)は、アクセスのリクエストと承認、ロールベースのアクセス制御、属性ベースのアクセス制御、ポリシーベースのアクセス制御など、さまざまなプロビジョニング方法を網羅した包括的なガバナンス・ソリューションを提供します。このサービスは、会話スタイルのユーザー・エクスペリエンスが特徴で、エンタープライズ全体におけるアクセス権限を詳細に可視化できます。これにより、ジョブ・コードやマネージャーの変更によってトリガーされたアクセス・レビューなどの、動的かつ定期的で自動化されたイベントベースのマイクロ認証が容易になります。

さらに、ほぼリアルタイムのアクセス・レビューが可能になり、特定されたレベルのリスクに基づいて、レビュー担当者がエンタイトルメントの受入れまたはレビューを行うためのオプションを含む詳細な推奨事項が提供されます。

[Oracle Access Governance](#)は、[Oracle Identity Governance](#)と共にハイブリッド・デプロイメント・モデルで稼働することもできます。ハイブリッド・モデルを選択した組織は、コンプライアンスやデータ・レジデンシの要件のためのオンプレミスのIDおよびアクセス管理の部分を維持しながら、クラウド・ネイティブのサービスで使用可能な高度な機能を利用できます。

「クラウドベースのガバナンス・ソリューションへ移行したことで、Oracle Access Governanceから、ユーザー・アクセス・レビューの効率化、アクセス権限のエンタープライズ規模での可視化、移行作業ゼロの実現、およびインサイトに基づく分析のための魅力的な選択肢が得られました。このソリューションには、当社のITセキュリティ効率を向上させる可能性があり、クラウド・ガバナンス・プラットフォームを探索している組織にとって価値のあるソリューションになると考えています。」

Cummins Inc., Identity and Access Management, IT Director
Monica J. Field氏

「クラウドに移行しようとしている組織が、Oracle Access GovernanceなどのIdentity-as-a-Serviceソリューションを利用して、より強力な分析主導のセキュリティを統合することには非常に価値があると考えます。このソリューションにより、Deloitteの専門家は、俊敏性、スケーラビリティ、および分析を備えた強化されたセキュリティを提供でき、顧客がガバナンスへの既存の投資を保護する支援をし、マルチクラウド環境をサポートできます。

Deloitte & Touche LLP,
Cyber and Strategic Risk,
Advisory Senior Manager,
Kashif Dhatwani氏

おもな利点

- **簡素化されたセルフサービス**：Oracle Access Governanceは、ユーザーが自身または他者のアクセス・バンドルまたはロールをリクエストできるようにするセルフサービスを提供します。この簡素化されたプロセスにより、効率が向上し、ユーザーはガバナンス・アクティビティにアクティブに参加できます。

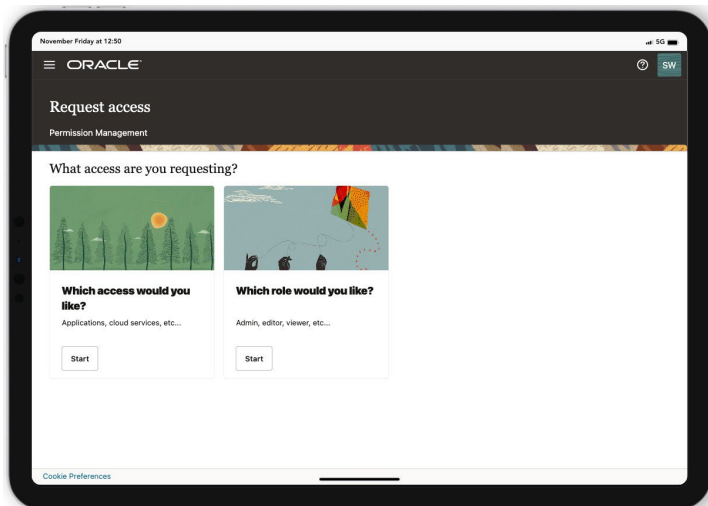


図2：簡素化されたセルフサービス

- **自動アクセス制御**：Oracle Access GovernanceはID収集をサポートし、属性ベースのアクセス制御（ABAC）が有効化されます。この機能により、IDに関連する特定の属性に基づいた、アクセス・バンドルのファイナリティ制御が可能になります。さらに、Oracle Access Governanceには、ロールベースのアクセス制御（RBAC）が組み込まれています。これは、特定のロールに基づいてアクセス権を定義して管理できるようにする機能です。これらのID収集とロールは、アクセス権の付与と管理のためにポリシーベースのアクセス制御（PBAC）でも使用できます。一致しないアカウントは、さまざまな管理対象システムの孤立アカウントや不正アカウントの検出に役立ちます。
- **柔軟な委任アクセス制御**：Oracle Access Governanceは委任された所有権を容易にするため、アプリケーション所有者がアカウントやエンタイトルメントを含むアクセス・バンドルを監督する一方で、企業はID収集を管理できます。この委任により、Oracle Access Governance内のアクセス権の管理が効率化されて簡素化され、関係者間のコラボレーションと説明責任が促進されます。
- **アクセス・マップの可視化**：Oracle Access Governanceは、組織全体のユーザー・アクセスを可視化し、特定のアプリケーション、リソース、サービスにどのユーザーがアクセスしているかを把握します。マネージャーは、チームのアクセス・マップをレビューできるため、チーム・メンバーのアクセス権限を把握して監督できます。個々のユーザーも自身のアクセス権限を表示できるため、自身のアクセス権に対する透明性と認識が得られます。

おもな機能

Oracle Access Governanceには、以下のような堅牢な機能セットが含まれます。

- **クラウド・ネイティブ・サービス**：OCIネイティブのサブスクリプション・サービス。
- **直感的なユーザー・エクスペリエンス**：会話型アプローチを使用して直感的なユーザー・エクスペリエンスを提供します。
- **インタラクティブ・ダッシュボード**：ユーザーが重要なタスクに集中できるようにするための価値あるインサイトを提供するダッシュボードを含みます。
- **アイデンティティ・オーケストレーション**：ローコードのウィザードベースの統合アプローチを使用した、革新的なオーケストレーション機能に基づく迅速なアプリケーション・オンボーディングをサポートします。
- **簡単な統合**：エンタープライズ・ワークロードと、クラウド・アプリケーションおよびサービスへのAPIベースの直接統合によってデプロイ可能なポータブル・エージェントを含みます。

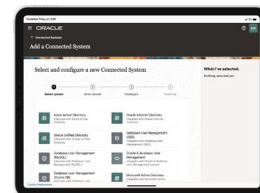


図3：アプリケーション・カタログ

- **簡単なアクセス・リクエスト**：セルフサービスベースのリクエストに対して簡単なユーザー・エクスペリエンスを提供します。
- **自動アクセス制御**：さまざまなシナリオでのアクセスの自動化に使用できる複数のアクセス制御方法を提供します。
- **実践可能なアクセス・レビュー**：アクセス・レビュー・プロセスを簡素化し、処方的分析に基づく実践可能なインサイトを提供して、マネージャーが情報に基づく意思決定を実行できるようにします。

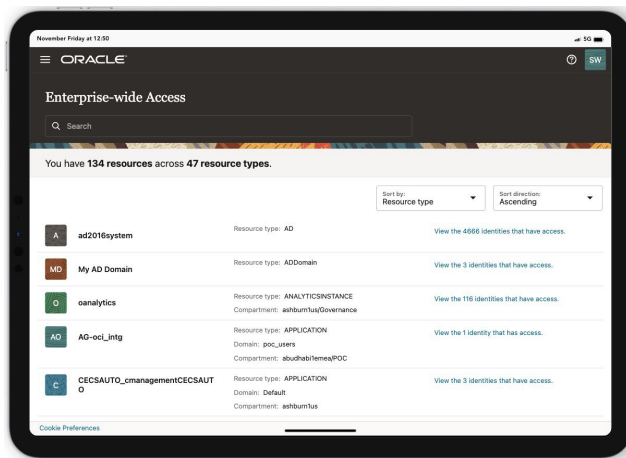


図4：エンタープライズ規模のアクセスの可視化

- **場所を問わないガバナンス**：Oracle Access Governanceは、エンタープライズ・アプリケーションと、Oracleワークロードおよび非Oracleワークロードを含むIaaS、PaaS、およびSaaSワークロードの全体にガバナンスを提供します。
- **規制遵守の強化**：Oracle Access Governanceは、重要/高リスクなデータへのアクセス権限保持者の識別に関連付けられた規制要件（米国サーベンス・オクスリー法、21 CFR Part 11、Gramm-Leach-Bliley、HIPAA、GDPRなど）を実施/保証できます。
- **認証効率の向上**：Oracle Access Governanceにより、組織では実践可能なインサイトと処方的分析が可能になり、ユーザーの生産性向上に必要なアクセスの包括的な理解が容易になります。職務または組織の変更やタイムラインベースの認証などのイベントベースの認証によって可視化ができるため、アクセスのレビュー担当者はアクセス権限の更新に必要なアクションを迅速に起こすことができます。ポリシーおよびグループのレビューは、最小限の権限付与の原則をさらに実行するのに役立ちます。

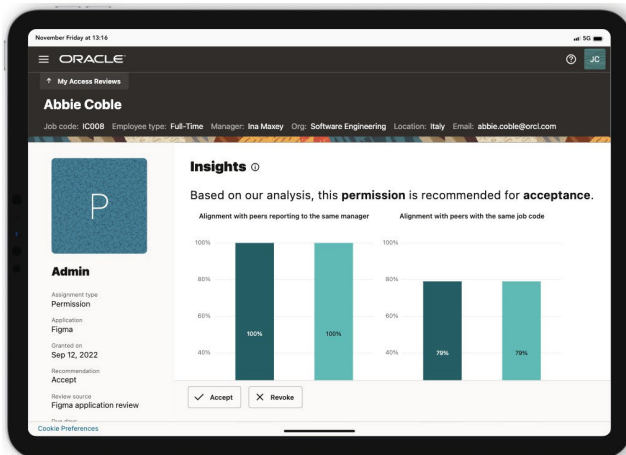


図7：処方的分析を用いたアクセス制御の適用

- **コストの削減**：Oracle Access Governanceでは、組織はクラウド・ネイティブのアイデンティティ・ガバナンス・サービスを使用できます。このサービスの効率的で使いやすいダッシュボード、コードレス・ワークフロー、ウィザードベースのアプリケーション・オンボーディングにより、ITコストの削減と時間の節約が実現します。

- **イベントベースのマイクロ認証**：SoRに変更があった場合にのみトリガーされるインテリジェントなイベントベースのアクセス・レビューを容易にします。タイムラインベースのマイクロ認証は、重要なマイルストーンに基づいてアクセスをタイムリーにレビューするのに役立ちます。
- **コードレス・ワークフロー**：アクセス制御およびガバナンスに軽量のコードレス・ワークフローを提供します。

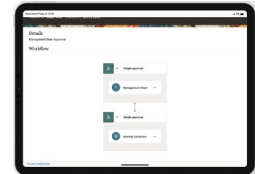


図5：ワークフロー・エディタ

- **包括的なIT監査、監視、およびレポート**：簡素化された柔軟な監査、監視、およびレポート機能が含まれます。



図6：分析ダッシュボード

まとめ

Oracle Access Governanceは、組織において、アクセス制御の自動化、可視化、情報に基づく意思決定、および全体的なコンプライアンス目標のサポートに役立ちます。組織は、クラウド・ネイティブ・サービスによって現在のアイデンティティ・ガバナンスおよび管理機能を拡張することで、より詳細な洞察から始めることができます。詳しくは、Oracle Access Governance [製品ドキュメント](#)または[Oracle Access Governance Webページ](#)を参照してください。

Connect with us

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、[oracle.com](https://www.oracle.com)をご覧ください。北米以外の地域では、[oracle.com/contact](https://www.oracle.com/contact)で最寄りの営業所をご確認いただけます。

blogs.oracle.com [facebook.com/oracle](https://www.facebook.com/oracle) twitter.com/oracle

Copyright © 2023, Oracle and/or its affiliates.本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120